別添１（様式）

令和７年度　県立玉野高等学校　学校評価書

校長　　安東　知之

１　自己評価

Ⅰ　評価結果

○　令和７年度学校自己評価アンケート集計結果（別紙参照）

Ⅱ　分析・改善方策

＜全体分析＞

○　「玉野高校に進学してよかった」の生徒の肯定的回答が 90%、保護者は 83%と昨年度と同程度の結果であったが、関連項目の教員の数値が 70%と満足度が低い結果となった。前年度からは回復傾向にあるものの、指導効果が実感できるような指導体制の構築を図る必要がある。

○　今年度の学校行事に対する、生徒・保護者・教職員の肯定的回答は高く、それぞれの信頼関係のうえに高い評価が得られたものと考えられる。特に、地域等との連携では、ボランティアへの参加が好調であり、地域からの期待も高いことから、引き続き推進する必要がある。

○　生徒の学習習慣については、学習実態調査からも一部の生徒を除いては進展がない。家庭における保護者の見立ても学習時間不足を課題と捉えられている。一方、本校の授業の様子については「わからない」と回答する保護者が多いことから、授業参観日の設定以外にも授業の様子を伝える発信を、多様な手段を使って行う必要がある。

○　生徒の進路相談や教育相談については、いずれも生徒の満足度が高く、効果的に利活用ができている。引き続き、個別の困り感に寄り添いながら相談の充実を図るとともに、保護者との連携がより一層深められるよう、情報共有を密に行う必要がある。

＜各重点における分析＞

（１）学校行事の運営に生徒の主体性が発揮できる場面を設定し、生徒が積極的に参加・運営することができた。校則のルールについても、生徒会執行部を中心に再考する機会を設け、生徒自ら意識調査を実施し、調査結果の分析からよりよい在り方に関する提案まで一連の流れを生徒・教員協働で進めることができた。引き続き、生徒の主体性を高める働きかけを推進する必要がある。

（２）生徒に関する情報共有を定期的に行うことによって、教員間で共通理解を図ることが容易となった。これにより、生徒への早期で適切な対応に繋げられ、保護者との連携も図ることができた。一方、生徒の学習習慣については課題が残り、学習時間は伸び悩む状況が続いている。キャリア教育の視点からも、個別のカウンセリングを充実させる必要がある。

（３）ボランティア活動が好調であり、地域からも高評価をいただいた。地域密着型の探究活動を推進する中で、生徒が主体的に地域に出向いていく機会が増えることは、キャリア意識の向上を図るためにも効果的である。引き続き、進路決定につながる要素の強いボランティア等は、特に個別の声かけを強化していく必要がある。

２　学校関係者評価委員名

山根　一人　（運営協議会会長）東　りえ　（運営協議会副会長）五老海　正登（運営協議会委員）
恵谷　栄一　（運営協議会委員）大川　佳郎　（運営協議会委員）大倉　明　（運営協議会委員）
河田　いづる（運営協議会委員）栗林　太一郎（運営協議会委員）谷　あゆみ（運営協議会委員）
二宮　崇　（運営協議会委員）琵琶　学　（運営協議会委員）山本　育子（運営協議会委員）
山本　和音　（運営協議会委員）

別添１（様式）

３　学校関係者評価

＜全体的な評価の概要＞

○　今年度の学校経営目標に対する最終評価は、いずれの項目も承認された。評価の基準については、実績・取組含め検討が必要である。

＜学校の現状・生徒の実態についての提言・意見＞

○　令和８年度のスクールポリシーにある文言で「夢の実現に向けて挑戦し続ける～」とあるのがいい。結果が出ないかもわからないことに向かって努力を続けることが大切だ。今のこどもは、褒められて育つか無関心の中で育つかという状況下、客観的に自分の実力を知らないというギャップを内包しているのではないか。厳しい社会に出ていく生徒に対して、褒めるだけでなく足りない部分も伝える客観的フィードバックを行ってほしい。社会適応力を高める必要がある

○　昨年度の１年次生実施の「エジソン」に参加したが、今年度再度参加してみて質が上がったと感じる。生徒が自分の考えを話すことができていたと思うが、今後より一層生徒の自己肯定感を上げるような事前のアドバイスがあればよいのではないかと感じた。

○　地域に貢献した生徒の肯定的回答が高いことは、総合的な探究の時間での探究活動の成果であると感じる。今後は、課題がみられるコミュニケーションの在り方について、指導の充実を図る必要がある。

○　生徒募集については、玉野市外の地域の保護者に向けたアピールが必要であろう。具体的には、岡山市や倉敷市、茶屋町付近も選択肢に入るのではないか。また、インスタグラムなどのSNS 活用が有効ではないか。

○　家庭学習時間の確保については、生徒が納得する形でアプローチした方がよい。また、学習だけでなくボランティアを通じて地域と関わることは、積極的に継続してほしい。

○　グランドデザインは非常にわかりやすくなった。校長の『生徒の心』を第一に置く姿勢が計画に反映されている。経営計画は、生徒との信頼関係を構築したうえで生徒と共に作り上げる意識を大切にしてほしい。

４　来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

（１）「熱く」：秩序と健康的で主体性のある学びの充実

- 挨拶や時間厳守といった基本的生活習慣の確立と校内外での規範意識の向上
- 学習習慣の確立と進路希望に合わせた学力の育成
- ICT の積極的な活用や「個別最適な学び」、「協働的な学び」の推進
- 心身の健康の保持増進と主体性の伸張を意識した学校行事等の活性化

（２）「温かく」：落ち着いて学びに向かう環境づくりと社会奉仕の精神の涵養

- 自己受容とともに他者の多様性を認め合う共生の精神と利他の心の涵養
- 落ち着いた学習環境の整備とものを大切にする心の涵養
- 教育相談体制のさらなる充実

（３）「いきいきと」：生徒と教員の意欲的な活動とその発信

- ３年間を見通したキャリア教育の推進
- 地域の未来に対する課題意識の醸成とその解決へ向けて踏み出すことのできる行動力の育成
- 探究活動や部活動等を通して生徒が活躍する姿を地域に積極的に発信していく広報活動の充実
- 教員の well-being な働き方の実現とそれに伴う働きがいの醸成